

# 熟達した鑑賞者の俳句の好みと性格との関連性

佐 藤 手 織\*

## The Experienced Readers' Liking for Haiku and Their Personality

Taori SATO\*

### Abstract

The purpose of this study was to examine experienced readers' liking for haiku and their personality. The results were that they liked objective and pessimistic haiku more than novices and that extroverted experienced readers liked the haiku in which strong 'kire' was used as much as introverted ones.

**Keywords** : haiku, experienced, personality, kire

### 背 景

筆者は、俳句について体系的な実作経験がなく、特段の知識を持たない一般の大学生を初学者と定義し、彼らがいろいろな俳句に対して抱く好ましさについて調査を実施した（佐藤、2005、2006）。その結果は、以下の3点に要約される。

① 俳壇史に沿った形ではないが、初学者には初学者なりの主観的・客観的な俳句の概念カテゴリーが形成されている。因子分析の結果、「陽性の主観」「陰性の主観」「客観」の3因子が抽出された<sup>1</sup>。

② 外向型は、内向型よりも俳句を全般的に好み、特に、切れが弱く、散文的・抒情的な俳句を好む。

③ 外向型は、切字「や」による切れを用いた俳句を好む。「や」が有する「詠嘆」の意味により、主観抒情的な印象が強められるためと考えられる<sup>2</sup>。

先行研究では鑑賞者の性格と俳句の好ましさを

との関連について基礎データを得ることが主目的であったため、実作経験や知識の影響を考慮しなくてよい初学者を対象とした。今回の研究では、俳句についての知識・理解が深いと考えられる実作者を対象に調査を実施し、俳句の好ましさと鑑賞者の熟達化および性格（向性）との関連性について、特に先行研究で抽出された3因子および切字の観点から検討する。

### 方 法

刺激：佐藤（2005）で、初学者を対象に使用した質問紙を用いた。質問紙は、「客観写生」「主観抒情」を主特徴とする「ホトトギス」「馬酔木」系列からそれぞれ選定された15句+13句=28句から構成されている。具体的な内容は、佐藤（2005）の表1を再掲して示す（表1）。なお、質問紙の巻末には、鑑賞した俳句の何割程度を既に知っていたかチェックする項目が設けられている（0～2割、2～4割、4～6割、6～8割、8～10割の5段階評定）。

手続き：調査対象者が所属するサークルの句会開始時に、俳句の質問紙および性格検査（淡

平成19年1月5日受理

\* 感性デザイン学科・助教授

表1 刺激として用いられた俳句（俳人名に続くカッコ内は系列を示す。（馬）は「馬酔木」、（ホ）は「ホトトギス」の系列）

愛されずして沖遠く泳ぐなり	藤田湘子（馬）
鮫鱈の骨まで凍ててぶち切らる	加藤楸邨（馬）
うすらひは深山へかへる花の如	藤田湘子（馬）
をりとりてはらりとおもきすすきかな	飯田蛇笏（ホ）
風吹けば白百合草を踊り出づ	山口青邨（ホ）
雉子の眸のかうかうとして売られけり	加藤楸邨（馬）
啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々	水原秋桜子（馬）
桐一葉日あたりながら落ちにけり	高浜虚子（ホ）
くもの糸一すぢよぎる百合の前	高野素十（ホ）
くろがねの秋の風鈴鳴りにけり	飯田蛇笏（ホ）
来しかたや馬酔木咲く野の日のひかり	水原秋桜子（馬）
金剛の露ひとつぶや石の上	川端茅舎（ホ）
瀧の上に水現れて落ちにけり	後藤夜半（ホ）
風の糸二すぢよぎる伽藍かな	高野素十（ホ）
闘鶏の眼つぶれて飼はれけり	村上鬼城（ホ）
ところてん煙の如く沈み居り	日野草城（ホ）
流れゆく大根の葉の早きかな	高浜虚子（ホ）
夏草に機織車の車輪来て止まる	山口誓子（馬）
夏の河赤き鉄鎖のはし浸る	山口誓子（馬）
バスを待ち大路の春をうたがはず	石田波郷（馬）
春ひとり槍投げて槍に歩み寄る	能村登四郎（馬）
向日葵の蓋を見るとき海消えし	芝不器男（ホ）
吹きおこる秋風鶴を歩ましむ	石田波郷（馬）
冬菊のまとおのがひかりのみ	水原秋桜子（馬）
冬蜂の死にどころなく歩きけり	村上鬼城（ホ）
プラタナス夜もみどりなる夏は来ぬ	石田波郷（馬）
麦車馬に遅れて動き出づ	芝不器男（ホ）
我庭の良夜の薄湧く如し	松本たかし（ホ）

路式向性検査、YG 検査）が配布され、内容・回答方法が説明された。俳句の質問紙は1ページに3句が印刷されたアンケート冊子になっており、各自のペースで俳句を鑑賞し、その好ましさにについて5件法（1「全く好ましくない」～5「とても好ましい」）で評定することが対象者の課題となる。質問紙および性格検査は回答者に持ち帰られ、回答後、郵送で回収された。

対象：青森県・徳島県の地域のサークルに属する俳句の実作者ならびに指導者45名を対象とした。以下、被験者の各属性に関する質問および各種検査への回答に関する基本的な記述統計量を列挙する。性別・年齢についての回答者数はそれぞれ35名（回答率78%、以下同様）・

36名（80%）で、したがって性別不明・年齢不明の回答者がそれぞれ10名・9名いる。性別は、男性7名、女性28名の内訳で、平均年齢は62.8歳であった。佐藤（2005）の初学者のデータと比較すると、女性の比率が高く、平均年齢もかなり高い。俳句の既知性についての回答率は44名（98%）で、その内訳は「0～2割」8名（18%）、「2～4割」11名（25%）、「4～6割」6名（14%）、「6～8割」6名（14%）、「8～10割」13名（30%）であった。向性検査への回答者は35名（78%）、向性指数の平均値は113で、佐藤（2005）の初学者の平均値101と比較すると高く、外向型が多いことが示された。また、YG 検査への回答者数も向性検査と同様35名（78%）で、その内訳はA類1名（3%）、B類2名（6%）、C類12名（34%）、D類19名（54%）、E類1名（3%）であった。向性検査の結果と同様、外向型が多いことが示された一方、C・D類の安定型の比率が高い（88%）ことも興味深いデータである。この傾向と、俳句の実作経験や年齢との関連性も興味深い問題ではあるが、稿を改めての検討課題としたい。

## 結 果

### 分析1:

まず、今回のデータと佐藤（2005）のデータを用い、初学者と実作者との比較を行う。俳句の好ましき評定について、両群の平均値およびその差の値を示したのが図1である（俳句の前に付記されている1～3の数字は、それぞれ「陽性の主観」「陰性の主観」「客観」の因子に負荷が高い（0.4以上）ことを示す。以下、同様）。28句中27句で、実作者の平均値が初学者の平均値を上回り、ノンパラメトリック検定（Wilcoxonの符号付き順位検定）の結果、1%水準で両群間に有意差が見られた。

実作者と初学者とで好ましさにそれ程差が見られない俳句（図1右側）の多くには、代表的な切字（「かな」「けり」）<sup>3</sup>の使用が認められず

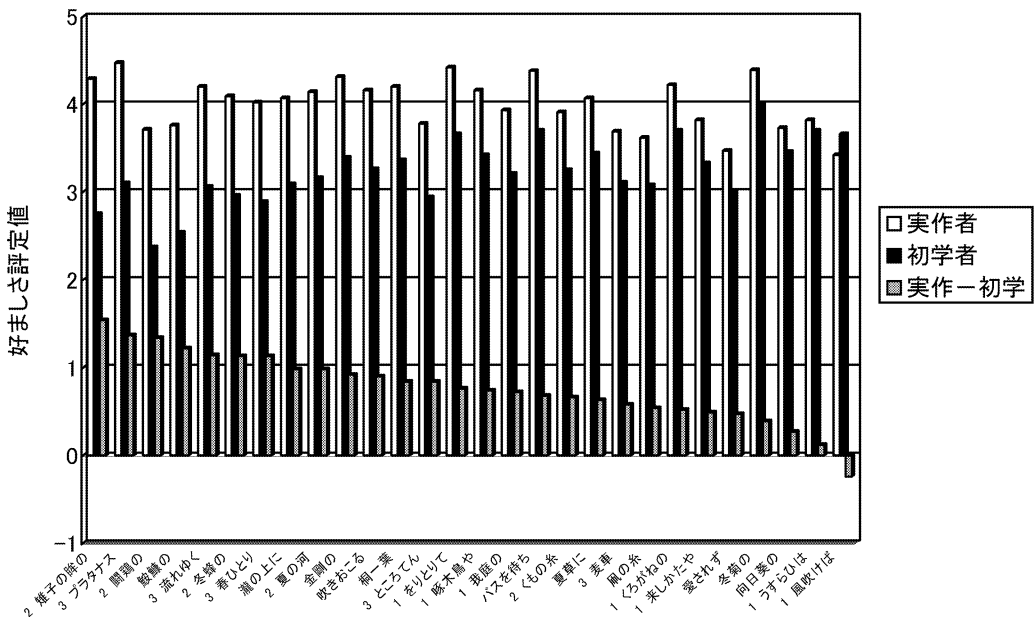


図1 初学者・実作者の俳句の好ましき

「陽性の主観」を特徴とする一方、実作者が特に好む俳句（図1左側）の多くは、代表的な切字が使用され「陰性の主観」「客観」を特徴とすることが見出された。因子名の付記がない俳句は、探索的分析の段階で不良項目として削除された俳句だが、「鮫鰭の～」「冬菊の～」「愛されずして～」は、それぞれ「雉子の眸の～」「来しかたや～」「うすらひは～」と同じ作者の俳句であり、これらの特徴である「陰性の主観」「陽性の主観」が認められる。また、「向日葵の～」にも抒情的な「陽性の主観」の特徴が無理なく認められる。

## 分析2：

俳句の好ましさに及ぼす熟達化の影響をさらに詳細に検討するため、質問紙の俳句の既知性に関する分析を行う。質問紙のチェックテストの結果にしたがい、実作者である被験者を（質問紙の俳句を6割以上知っている）高既知群19名、（知っている質問紙の俳句は4割以下である）低既知群19名に分類し、俳句の好ましき評定について、両群の平均値およびその差の値を

示したのが図2である。28句中22句で、高既知群の平均値が低既知群の平均値を上回り、ノンパラメトリック検定（Wilcoxonの符号付き順位検定）の結果、1%水準で両群間に有意差が見られた。

高既知群が特に好む俳句（図2左側）には、「陰性の主観」を特徴とする俳句が多く、「鮫鰭の～」にも同様の特徴が認められる。また、代表的な切字の使用が目立つ。一方、低既知群が好む俳句（図2右側）では、切れが弱い「陽性の主観」を特徴とする俳句が多く、「向日葵の～」にも同様の特徴が認められる。「客観」を特徴とする俳句は、高既知群が低既知群よりやや好む俳句群に含まれる。

分析1・2を総括し、熟達化による俳句の好ましきの変化をより定量的に検討するために、分析2で用いた実作者のデータに佐藤（2005）の初学者のデータを加えた比較分析を行う。ただし、佐藤（2005）の研究対象となった初学者の人数（125名）は、今回の分析の対象となっている高既知・低既知群の実作者の人数（それぞれ

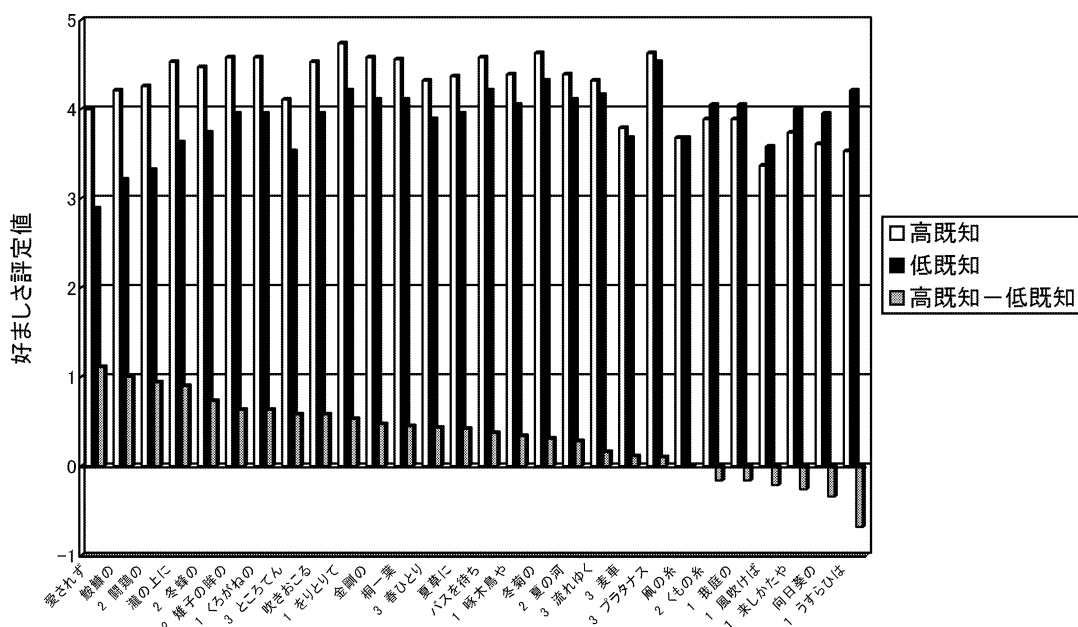


図2 実作者低既知・高既知群の俳句の好ましき

19名) よりかなり多いため、初学者のデータにランダムサンプリングを行うこととした。その際、サンプル数は、本研究で YG 検査に回答した高既知・低既知群の合計と同数の 28 名分とし、A～E 類の内訳も同じ (A : B : C : D : E = 1 : 1 : 10 : 15 : 1) になるようにした。

各因子を特徴とする俳句の好ましき (負荷量 0.4 以上の俳句の好ましき評定の平均値) と、熟達度の関係を図 3 に示す。熟達度 (初学者, 低既知実作者, 高既知実作者) を被験者間要因, 因子 (陽性の主観, 陰性の主観, 客観) を被験者内要因として 2 要因の分散分析を実施したところ、熟達度, 因子, および両者の交互作用が 1% 水準で有意であった。さらに下位検定 (Ryan 法による多重比較) の結果、「陰性の主観」を特徴とする俳句では熟達度の全ての水準間で、「陽性の主観」「客観」を特徴とする俳句では「初学者-低既知実作者」「初学者-高既知実作者」の組み合わせにおいて、好ましき評定の有意差が見られた (「陽性の主観」「客観」では  $p < .05$ , 「陰性の主観」では  $p < .01$ )。また、初学者において、

「陽性の主観」を特徴とする俳句の好ましきは他の因子を特徴とする俳句よりも有意に高い ( $p < .01$ ) が、低既知・高既知実作者において因子の単純主効果は有意ではないことが見出された。

### 分析 3:

YG 検査の結果に基づき、実作者における性格 (向性) と俳句の好ましきとの関連性を検討する。本研究の被験者では安定型の比率が高い (88%) ことを考慮し、不安定型の被験者のデータは除外することとした。被験者を C 類 12 名, D 類 19 名に分類し、俳句の好ましき評定について、両群の平均値およびその差の値を示したのが図 4 である。D 類の平均値が C 類の平均値を上回ったのは 28 句中 13 句で、ノンパラメトリック検定 (Wilcoxon の符号付き順位検定) の結果、両群間に有意差は見られなかった。

D 類が C 類より特に好む俳句 (図 4 左側) では「陰性の主観」「客観」を特徴とする俳句が多く、「鮫鰐の～」にも「陰性の主観」の特徴が認

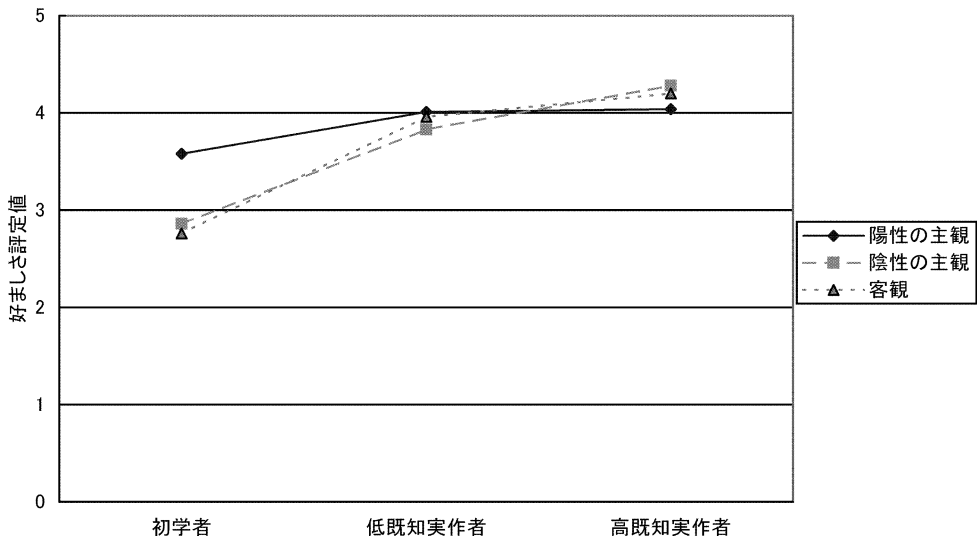


図3 熟達化に伴う俳句の好ましさの変化

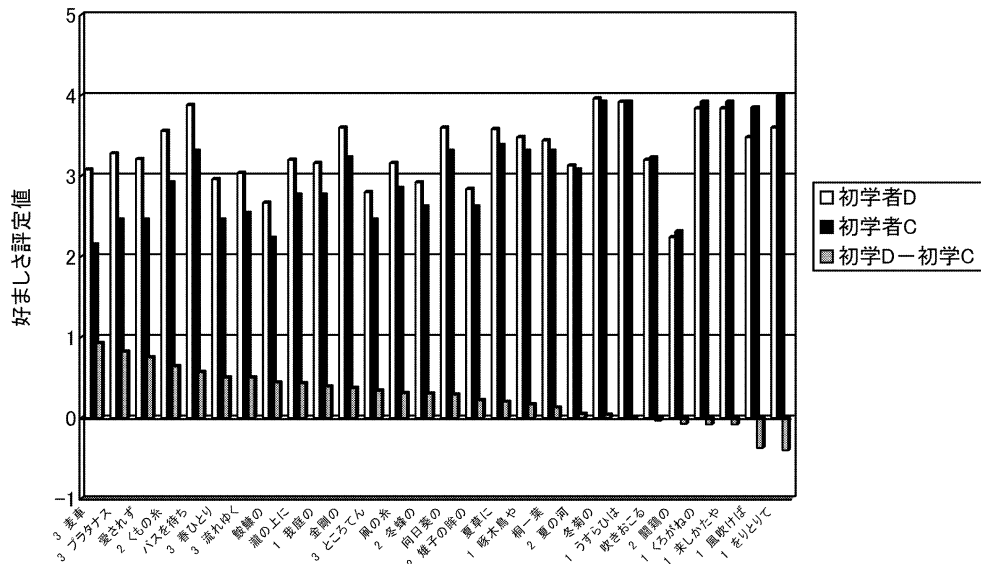


図4 実作者C・D類の俳句の好ましさ

められる一方、C類がD類より好む俳句(図4右側)では特定の因子に高い負荷を有さない俳句が多い。いずれにおいても、典型的な切字を用いた俳句が多く、また、「陽性の主観」を特徴とする俳句は、C類がD類より好む俳句群を中心に広く分布している。

これらの知見は、[背景]で述べた初学者についての知見②③とほとんど合致しないが、上記の知見を基礎づける初学者のデータ(佐藤, 2005)では安定型の被験者の比率(40%)が本研究(88%)よりかなり低いことに留意する必要がある。そこで、佐藤(2005)の初学者のデー

タから、安定型の被験者のデータのみを抽出し、あらためて性格と俳句の好ましきとの関連性について検討する。初学者のデータをC類13名、D類23名に分類し、俳句の好ましき評定について、両群の平均値およびその差の値を示したのが図5である。28句中22句中、D類の平均値がC類の平均値を上回り、ノンパラメトリック検定(Wilcoxonの符号付き順位検定)の結果、両群間に1%水準で有意差が見られた。

D 類が C 類より特に好む俳句 (図 5 左側) では「客観」を特徴とする俳句が多く、C 類が D 類より好む俳句 (図 5 右側) では「陽性の主観」を特徴とする俳句が多い。また、代表的な切字を用いる俳句は後者には多いが、前者には少ない。「陰性の主観」を特徴とする俳句は、D 類が C 類より好む俳句群を中心に広く分布している。これらの知見の内容は、上記の俳句群と因子との間に一定の対応が見られる点で、先行研究 (外向型が特に好む俳句・外向型と内向型が等しく好む俳句と因子との間に一定の対応は見られなかった) と異なる。そこで参考として、佐藤 (2005) の初学者のデータから B・E 類分 (それぞれ 24 名・29 名) を抽出し、俳句の好ましき評

定について、両群の平均値およびその差の値を図6に示す。28句中22句で、B類の平均値がE類の平均値を上回り、ノンパラメトリック検定(Wilcoxonの符号付き順位検定)の結果、両群間に1%水準で有意差が見られた。B類がE類より特に好む俳句(図6左側)では「陽性の主観」を特徴とする俳句および代表的な切字を用いない俳句が多い一方、E類がB類より好む俳句(図6右側)では特定の因子との対応が認められず、代表的な切字を用いた俳句が多い。

## 考 察

- ・熟達化が俳句の好ましさに及ぼす効果

分析1・2を総括すると、熟達化に伴う俳句の好ましさの変化は以下の3点に要約される(カッコ内は参考となる図)。

- ① 鑑賞者の実作経験や知識・理解の深化による熟達化に伴い、俳句全般に対する好ましさは単調増加する(図1・2・3)。
- ② 「陽性の主観」を特徴とする俳句は、初学者の段階で特に好まれ、その後の熟達化に伴いさらに好まれるようになるが、熟

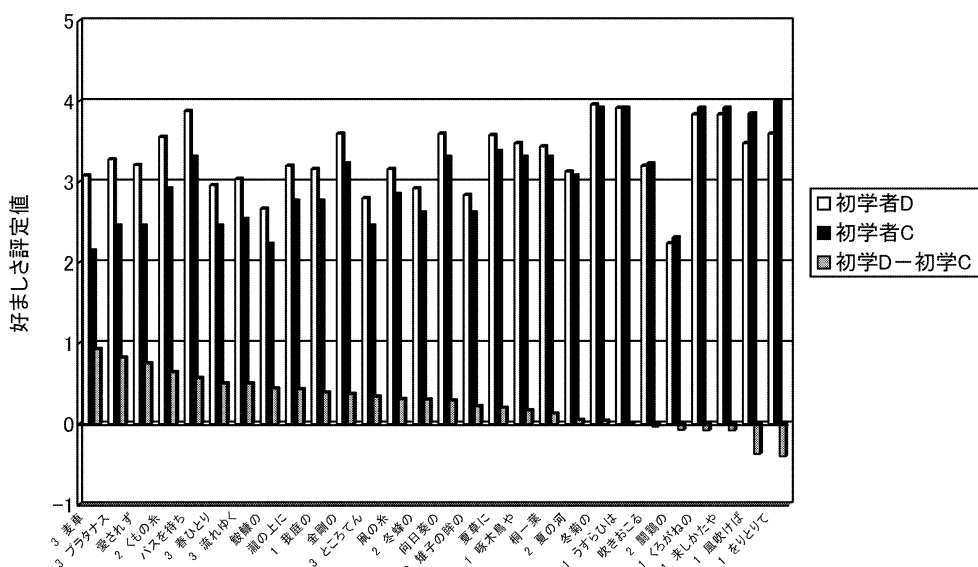
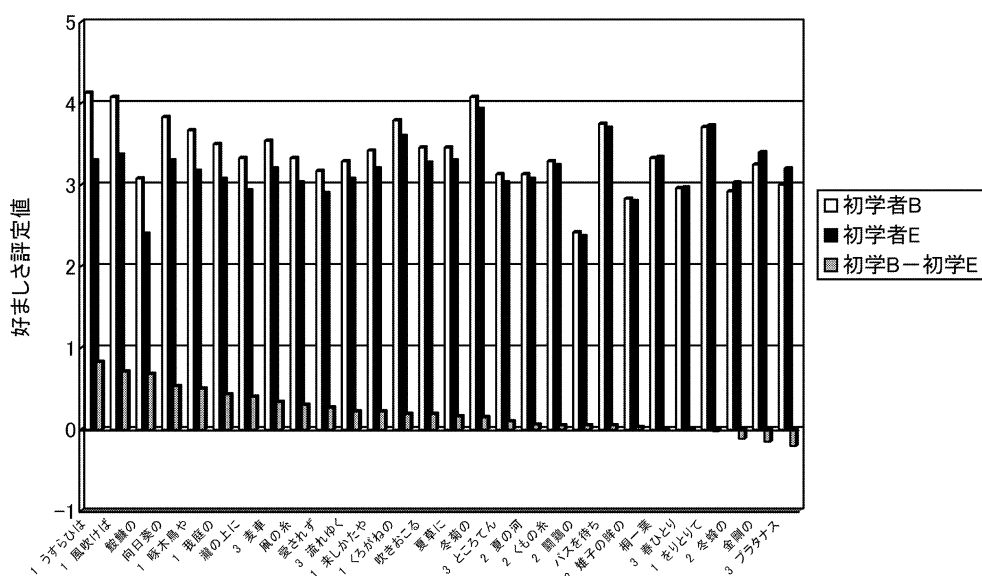


図5 初学者C・D類の俳句の好ましさ



と同様、俳句の本質についての理解が深化する過程と解釈される。

#### ・性格（向性）と俳句の好ましさと関連性

先行研究（佐藤，2005）では、向性一般を中心として、性格と俳句の好ましさと関連性の問題を扱ってきたが、本研究では、調査対象者の9割近くが、YG検査の結果、安定型（C・D類）に分類された。そこで、[結果]でも示したように、比較のための初学者のデータ（佐藤，2005）を、安定型を中心に再検討を行ったところ、先行研究の知見と相違する点がいくつか見られた。本項はまずその検討から始めたい。

今回再検討した初学者C・D類のデータは、① D類（外向型）が、俳句全般、特に切れの弱い俳句を好むという点で、先行研究の内向型・外向型一般のデータと共通しているが、② D類がC類より特に好む俳句に一定の特徴（「客観」）が見られる点異なる。そこで参考のため、佐藤（2005）の不安定型（B・E類）の初学者のデータを検討すると、B類（外向型）がE類より俳句全般、特に切れの弱い俳句を好むという点ではD類と共通するものの、B類が特に好む俳句の特徴は「陽性の主観」であるという、D類とは異なる結果が得られた。したがって、D類が特に好む俳句の特徴は外向型について一般化できる内容ではなく、佐藤（2005）で得られた、外向型が特に好む俳句に一定の特徴が見られないとの知見は、安定型（D類）・不安定型（B類）の傾向が混在した結果と見なすことができるだろう。そこで、上述の①は外向型全般に共通するが、②はD類に特有の傾向として考察を進めたい。

本研究で実作者C・D類について得られた知見（図4）は、初学者C・D類の知見（図5）と主に以下の3点で異なる。

- ① 俳句全般の好ましさに、向性による差は見られない。
- ② D類が特に好む俳句は「客観」のみならず「陰性の主観」をも特徴とする。

③ D類が特に好む俳句に、代表的な切字の一定の使用が見られる。

①の知見は、実作経験に伴い、俳句についての全般的な知識・理解の深化が大きく影響するようになり、俳句の好ましさが、鑑賞者の性格に関係なく、高いレベルで均等化された結果と考えられる。②の知見は、前項で示した、熟達化に伴い「客観」を特徴とする俳句、さらに「陰性の主観」を特徴とする俳句が好まれるようになっていく順序と対応しており、この傾向がD類においてC類より優勢である可能性を示唆している。元来、外向型（B・D類）は、初学者の段階でも、内向型（C・E類）以上に俳句全般に対する高い好みを示してきたが、熟達化に伴いさまざまなタイプの俳句を好むようになるプロセスにおいても内向型に先行するのではないかと考えられる。③の知見では、D類が、初学者の段階とは異なり、代表的な切字を使用する俳句を好むことが示され、熟達化に伴い、俳句の重要な本質である切字への理解・共感がD類においても十分に深まったためと考えられる。

安定型の鑑賞者の俳句の好みについてまとめると、熟達化に伴い、初学者の段階では好まれない「客観」「陰性の主観」を特徴とする俳句および切れの強い俳句が好まれるようになることが一般に言えるが、前者については外向型（D類）、後者については内向型（C類）が先行すると言えよう。

#### 今後の課題

今後の課題を挙げておきたい。第一点は、今回の調査対象者において、安定型の比率が著しく高かった点に関する課題である。これが、単に偶発的な事態だったのか、実作者に一般的な傾向であるのかを明らかにし、前者の場合には不安定型の実作者のデータを新たに蓄積し、後者の場合にはその理由を検討する必要がある。第二点は、第一点とも関連するが、鑑賞者の性格に関する新たな視点からの検討の必要性であ



る。先行研究(佐藤, 2005, 2006)を含めて、これまで筆者は主に向性の問題を中心に俳句の好ましきの問題を扱ってきた。しかし、今回、先行研究のデータを再検討することにより、外向型が特に好む俳句の特徴は、その鑑賞者の情緒安定性により異なることが明らかになり、また、詳細は割愛するが、不安定型(B・E類)が安定型(C・D類)よりも俳句全般を好むことも、補足的な検討から明らかになった。向性についても課題は多々残されているが、今後新たに、情緒安定性についての検討も実施する必要がある。第3点は、切字・切れに関する課題である。筆者のこれまでの考察では、切れの強弱は主に切字の有無により機械的に判断され、その結果、この問題に関する考察が不十分な内容になっていたことは否めない。個々の俳句について、鑑賞者が切れの強弱を実際にどの程度感じているかを定量的に検討し、その結果を俳句の好ましきと関連づけていく必要があるだろう。以上の諸点を念頭に、今後さらに検討・考察を深めたい。

### 注

- 1 佐藤(2005)では、それぞれ「格調」「非情」「発見」と命名された。
- 2 長谷川(2005)は、芭蕉の有名な「古池や蛙飛びこむ水の音」の句が「古池に蛙が飛び込んだ」

と解釈されやすいことについて、切字「や」が強い切れの印象を読者に与えず、その結果、句全体が散文的に読まれやすいことを理由として挙げている。また、主観抒情を主特徴とする秋桜子の俳句においても、切字「や」が用いられることが多く、その場合の「や」は句の調べを整える役割を果たし、句全体が切れ続くようになっていると考えられる。このように、切字「や」が用いられても、読者に弱い切れの印象しか与えない可能性があることを改めて指摘しておきたい。

- 3 代表的な切字には当然「や」を含めるべきであろうが、注2に記した事情から除いた。
- 4 仁平(1986)は、同じ論考において、「しろうと性」と作品の「おもしろさ」の関連性を指摘している。本研究では、鑑賞者に、俳句の「好ましき」のみならず「よさ」「おもしろさ」の評定も実際は課していたが、これら3つの評定値は相互に極めて相関が高いため、分析・考察は専ら、当初の関心であった「好ましき」についてのみ行うこととした。

### 引用・参考文献

- 長谷川 權 2005 古池に蛙は飛びこんだか 花神社  
 川名 大 2001 現代俳句 上・下 ちくま現代文庫  
 仁平 勝 1986 俳句 ヌーベルバーグの旗手―西東三鬼論 詩的ナショナリズム 富岡書房  
 仁平 勝 2000 俳句をつくろう 講談社現代新書  
 佐藤手織 2005 俳句の主観性・客観性に関する初學者の好みと性格特性 八戸工業大学紀要第24巻 205-211  
 佐藤手織 2006 初学鑑賞者の性格特性と俳句の好みの関連性―「切れ」の効果を中心として― 八戸工業大学紀要第25巻 191-197